

意識のセフティロック要因

セフティロックは、通常、安全を確保するための物理的な道具を示している。

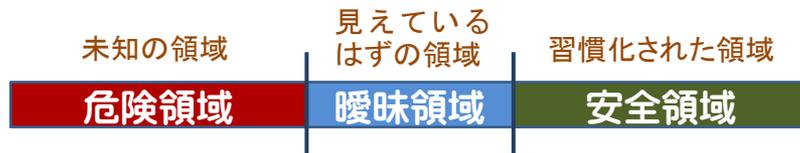
日常の思考、行動、表現、姿勢には、セフティロックに当てはまる道具は存在しない。唯一、習慣化された思考・行動が、安全を広く確保していると信じられている。または、何もしなければ危険はないと考えているかもしれない。

何もしなければ、第一に社会ルールが分からない。第二に社会変化に気付かない。第三に危険を見いだせない。

定時に出かけ、いつもの所を、いつもの様に通り、いつもの仕事を、いつものように懸命に済ませて、定時に帰宅する。一番最初にリストラされるのは彼等である。

言葉の領域であるから、セフティロックがある。

未知の領域は誰にも分からない。安全・危険の区別も出来ない。同じようにすれば、安全だとするのは、きょうと同じ明日があるとの信仰である。



習慣化された領域は近い未来に、クレームだらけ、問題だらけの領域になる。

見えているはずの部分が、すべて見えているとは限らない。見えているモノが真実であるとは限らない。

- リスクを列記しておく。
- 経験は役にたつとは限らない。
- 経験で対処できるのは、既に起こっていた問題である。



意思決定を仕事にしている者に安全領域は存在しない。



安全領域への転換

- × 一人で起こり得るリスクを挙げる。
 - △ 一人で起こり得るリスクを数十挙げる。
 - グループで起こり得るリスクを出来るだけ多くアイデアラッシュする。
- あらゆるリスクを協働する者が知っていることが、リスクを安全領域にもっていく方法である。

安全性の確保 セフティロックの事前準備

- 持てるものを知覚し、確保する。
- 不足している手段・材料を用意しようとする。
- 持てるモノが最適であるかを検証する。
- 目的の意味と方向を常に検討し、新たな方法、材料を常に創造しようとする。
- 思考・行動に対しての負を常に想定する。
- 常に完全を検討する。